

### 3 学習指導要領の趣旨を踏まえた資質・能力の育成

「生きる力」を  
育むために

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

○三つの柱で整理された育成を目指す資質・能力が、バランスよく育まれるようにすることが必要です。

- I カリキュラム・マネジメントの充実
- II 「主体的・対話的で深い学び」の実現

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

#### I 学校の教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの充実

学校の教育目標（学校として育成を目指す資質・能力）

目指す児童生徒の姿を全教職員で共通理解

(1) 教科等横断的な視点で教育の内容等を組み立てていく。

教科等間の指導の関連付けを図りながら、幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育むことを目指す。

～学校の教育目標の実現に向け、教科等横断的な視点に立って育成することが求められる資質・能力～

- ①教科等の枠組みを踏まえて育成を目指す資質・能力
- ②言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力
- ③豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた、伝統や文化、環境、生命の尊重、防災等の現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

- 教科等横断的な視点に立って資質・能力を育成することの意義について、全教職員の共通理解を図ることが大切です。
- 児童生徒の発達の段階を考慮するとともに、各教科等の指導内容相互の関連を明確にしなが資質・能力を育成することが大切です。
- ②、③については、学年を超えて見通したり振り返ったりすることができるよう、育成を目指す資質・能力の系統化を図ることが重要です。

(2) PDCAサイクルを機能させた組織的、継続的な授業改善を推進する。

育成を目指す資質・能力に関する児童生徒の状況等を全教職員で共通理解し、PDCAサイクルを確立する。

#### \*1 学校全体のPDCAサイクル

##### Plan

- 現状把握、課題の明確化 ○研究主題、仮説の設定
- 研究の重点、具体的な手立ての焦点化
- 検証方法、判断基準の設定 ○校内研究計画の立案
- 授業改善を推進する組織づくり 等

\*1 学校全体のPDCAサイクル  
全教職員が協働的に児童生徒の学びを高めようとする、授業研究を中心としたPDCAサイクル

\*2 個々の教員のPDCAサイクル  
一人一人の教員が、単元や題材において日々の授業改善に取り組むPDCAサイクル

##### Action

- 成果と課題の分析
- 改善方針及び計画の立案
- 組織の役割の見直し 等

##### Do

- 指導案検討会、授業参観、研究協議会
- 管理職等の授業観察
- 職員会議、学年部会、教科部会 等

##### Check

- 研究協議会、相互授業参観等による、目指す子どもの姿の実現状況に係る成果や課題の把握
- 各教員の授業改善に係る取組状況の把握
- 児童生徒の変容の把握
  - ・観点別学習状況の評価 ・各種学力調査
  - ・学校評価 ・児童生徒による授業評価 等

#### \*2 個々の教員のPDCAサイクル

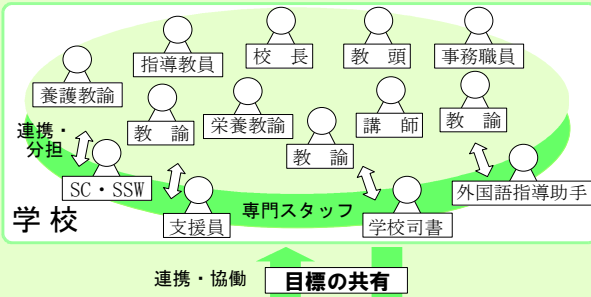


○一人一人の教員が自校の研究の方向性を理解し、研究の重点や具体的な手立て等に基づいて、日々の授業におけるPDCAサイクルを確立していくことが大切です。その上で、自校の授業研究（指導案検討会や模擬授業等の協働的な授業づくり、授業参観、研究協議会を核とする年間を通した共同研究）の充実を目指します。

○学習評価を行う際には、児童生徒の学習の成果を的確に捉え評価するだけでなく、評価の結果を教員が次の指導の改善に生かすこと、すなわち「指導と評価の一体化」を図ることが重要です。

### (3) 地域の教育資源や学習環境も含め、人的又は物的な体制を確保する。

人材や予算、時間、情報といった人的又は物的な資源を、教育内容と効果的に組み合わせる。



#### 地域

#### 人的な資源

企業や行政等の関係者、各種の専門家、町内会・商店の人、卒業生、保護者など

#### 物的な資源

自然環境、公共施設及び設備、その他学校の教育活動に提供・貸与してもらえる物全て

○教育課程の実施に当たっては、学校規模、教職員の状況、施設整備の状況などの人的又は物的な体制の実態を十分考慮することが必要です。特に、教材・教具の整備状況、地域の教育資源や学習環境（近隣の学校、社会教育施設、児童生徒の学習に協力できる人材等）などについて具体的に把握することが大切です。

○教育課程を介して学校と地域社会がつながることにより、どのような児童生徒を育てるのかといった目標を共有し、「地域とともにある学校づくり」を進めていくことが大切です。

## II 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

### 【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

生きて働く  
知識・技能の  
習得

未知の状況にも  
対応できる  
思考力・判断力・表現力  
等の育成

何を理解しているか  
何ができるか

理解していること・できる  
ことをどう使うか

### 【対話的な学び】の視点

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

### 【深い学び】の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、**\*各教科等の特質に応じた「見方・考え方」**を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

○教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童生徒の状況等に応じて、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、質の高い学びを実現し、児童生徒が資質・能力を身に付けられるようにすることが求められています。

○ICTの特性・強みを生かした教育活動を行うことで、必要な資質・能力を児童生徒一人一人に確実に育成するための授業改善につなげることが期待できます。

#### \*各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- ・その教科等ならではの物事を捉える視点や考え方
- ・各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐもの